

レスピマット (スピリーバ・スピオルト)

採用



製品名
スピリーバ_{レスピマット}

分類
長時間作用性抗コリン薬
(LAMA)

採用



製品名
スピオルト_{レスピマット}

分類
長時間作用性抗コリン薬
(LAMA) +
長時間作用性β₂刺激薬
(LABA)

チェック項目 (ピットフォール)

吸入前

- カートリッジを奥までしっかりと押し込めていない
- 透明ケースをはめ戻していない

吸入時

- 吸入前に薬剤残量カウンターを確認していない
- 透明ケースをカチッと音がするまで
一気に180度回していない
- 蓋を開けたまま回転させてしまっている
- 吸入前にキャップをあける方向が間違い開けられない
- 吸気口を手指や口唇でふさいでいる
- 吸入前に息を吐いていない
- 薬剤噴霧時に、呼吸同調ができていない
- 薬剤噴射方向が不安定
- 吸入時に吸入口を隙間なく覆っていない。
- 薬剤をゆっくりと深く吸入できていない
- マウスピースに口を当てる前からすい始めている
- 吸入直後の息止めをしていない

吸入後

- 吸入後のうがいをしていない (口渇防止)

いずれの問題点も発見できなかった

レスピマット (スピリーバ・スピオルト)

スピリーバ®レスピマット® スピオルト®レスピマット®の吸入方法

この指導書は、スピリーバ®レスピマット®あるいはスピオルト®レスピマット®を吸入される患者様に対して、吸入方法を説明したものです。1枚ずつ切り取って、患者様にお渡しください。



長時間作用性吸入気管支拡張剤
処方薬医薬品^{※1}

薬性標準収載

スピリーバ® 1.25 μ g・2.5 μ g
レスピマット®60吸入

(チオトロピウム臭化物水和物製剤) 注) 注意-医師等の処方箋により使用すること



COPD治療配合剤

薬性標準収載

スピオルト® レスピマット®
60吸入・28吸入

チオトロピウム臭化物水和物/オロダテロール塩酸塩製剤 **SPIOLTO®**
処方薬医薬品 (注意-医師等の処方箋により使用すること) **RESPIMAT®**

レスピマツト (スピリーバ・スピオルト)

スピリーバレスピマツト スピオルドレスピマツトを吸入される患者様へ

毎日の吸入方法

〈吸入は1日1回 **2吸入** 行います。〉

写真は全てスピオルト®レスピマツト®28吸入製剤のものです。全ての吸入用器具レスピマツト®において使用方法は同様です。

Step 1 回す

キャップ
透明ケース

キャップを閉じた状態で**上向きにし、透明ケースをカチッと音がするまで右に180度回転させます。**

Step 2 開ける

マウスピース (吸入口)

キャップを完全に開け、息をゆっくり最後まで吐き出します。

Step 3 ゆっくり吸う

呼吸孔
吸入口
噴霧ボタン

マウスピース (吸入口) をしっかり口にくわえ、息を口から**ゆっくり**と吸いながら、噴霧ボタンを押し、できるだけ**ゆっくり**肺いっぱい息を吸い込みます。苦しくならない程度、息を止めます。

キャップを閉じもう一度①～③を繰り返します。
吸入は1日1回 **2吸入** 行います。

① 注意点

- 目盛りは透明ケースを180度回転させるごとに1噴霧分進むため、1回の噴霧時に180度を超過して回転させないようお願いいたします。
- 透明ケースを回転させる際、微量の薬液が噴霧されることがございます。必ずキャップを閉じた状態で透明ケースを回転させてください。
- マウスピース (吸入口) を口にくわえた際、通気孔をふさがないようにしてください。
- レスピマツト®の吸入時に薬が目に入らないように注意してください。

レスピマツト®のお手入れについて

- 少なくとも週1回はマウスピースとその内側の金属部分を湿らせた布またはティッシュペーパーで拭いてください。金属部分は変色することがありますが、吸入用器具レスピマツト®の性能には影響はありません。
- 本剤は金属・プラスチックでできていますので、地方自治体により定められた方法に従って廃棄処理してください。また、本剤を分解したり、カートリッジの底面に穴をあけないでください。



回転が困難な患者には、
メーカー資材の回転補助具を検討してください



キャップを開けてから透明ケースを開けた場合、ボタンを押していると噴霧してしまいます

息吐きをしないと、吸入が上手にできません。
十分に息吐きが出来ているか確認します

吸入口をふさがない
吸入の同調を確認 (噴霧は約1.5秒) 勢いよく吸いすぎるとむせます



吸入口 (ユニブロック)

肺内への薬剤の沈着率を高めるため、息止めが必要です。
ただし無理をさせないこと


吸入ステロイドは口腔内カンジダや嚙声などの
副作用を防止するため吸入後すぐにうがいをします。
それ以外の吸入薬も統一化を図るため、
うがいを行うように説明します。


キャップをする前に、吸入口を拭くように指導します


レスピマツト (スピリーバ・スピオルト)

新しいレスピマツト®を使用開始するときに


- キャップを閉じた状態で、安全止めを押しながら、透明ケースをはずします。


- カートリッジを吸入用器具レスピマツト®にまっすぐ挿入します。



- カートリッジを奥まで挿入します。





この方法や奥まで挿入できない場合は、かたい甲羅の上で挿入してください。




カートリッジは、2-3mm程度見ええている状態で正常に挿入されています。
- 透明ケースを装着します。


- キャップを閉じた状態で上向きにし、透明ケースをカチッと音がするまで右に180度回転させます。


- キャップを完全に開けます。


- 下に向け噴霧ボタンを押し、吸入準備をします。



霧が目に入らないように注意してください。
- ミスト(霧)が見えるまで⑤～⑦の操作を行った後、さらに3回操作を繰り返してください。

これで吸入準備は完了です。

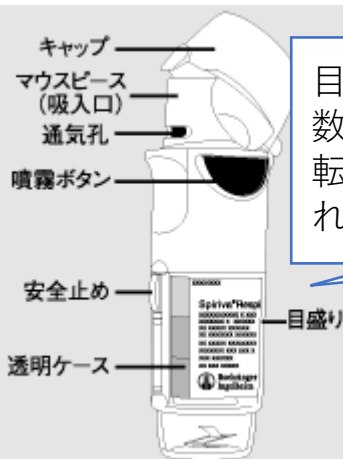
テスト噴霧は、吸入可能な回数には含まれません。準備完了後、スピリーバ®1.25µg/2.5µgレスピマツト®60吸入及びスピオルト®レスピマツト®60吸入では30回(60噴霧)、スピオルト®レスピマツト®28吸入では14回(28噴霧)が可能です。

確実に挿入しないと噴霧異常の原因になります。
長期処方の場合、処方時3本まで装着して渡しても大丈夫です

テスト噴霧はtotal 4回必要 (5回目から吸入可能)

① 注意点

- カートリッジが奥まで挿入できなくなりますので、カートリッジを挿入する前に透明ケースを回転させないようお願いいたします。透明ケースをカートリッジ挿入前に180度回転させてしまった場合は、噴霧ボタンを押し、元に戻した後にカートリッジを挿入ください。
- 一度挿入したカートリッジは、原則、抜かないでください。ただし、カートリッジがまっすぐでない場合、奥まで挿入できない可能性があります。その場合には、一度カートリッジを抜いていただき、再度まっすぐ挿入ください。
- 吸入用器具レスピマツト®を7日間以上使用しなかった場合は、下に向けて1回噴霧した後に使用してください。また、21日間以上使用しなかった場合は、ミスト(霧)が見えるまで⑤～⑦の吸入前に必要な準備を行った後、さらにミスト(霧)が見えてから⑤～⑦の操作を3回繰り返した後に使用してください。カートリッジを挿入して3か月以上経過した場合は、薬剤が残っていたとしても使用しないでください。
- 使用済みの吸入用器具レスピマツト®に新しいカートリッジを挿入しても、目盛りはリセットされません。吸入用器具レスピマツト®とカートリッジは必ずペアでお使いください。




目盛りはおおよその残りの噴霧回数を示します。透明ケースが回転させることが出来なくなるとそれ以上は使用できません

▼ 患者さん向けのCOPDに関する情報提供を目的としたサイトです。

COPD-jp.com



提供: 日本ベーリンガー-インゲルハイム株式会社 

014790-0